

秩父今宮神社 奉賛会だより

(平成三十年正月号)

年頭のご挨拶

今宮神社 宮司 塩谷 崇之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は当神社に格別の御尊神と御篤志を賜りまして誠にありがとうございます。

「戌年」の年頭にあたり、中町奉賛会の皆様をはじめ、秩父地域のますますの隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

「戌」(いぬ)は十二支の十一番目の干支ですが、この字は、もともと「滅」という字に由来するもので、草木が枯れる状態を表しています。その深層には「植物が育っていき、花が咲き、実をつけ食べごろが過ぎた後、自分の実を落として、本体の幹だけは守る」という趣意があるそうです。昨年の酉年は「収穫」「商売繁盛」につながる縁起の良い年とされましたが、戌年は、



昨年の収穫の喜びに浮かれること無く、厳しい冬に備え根幹・地盤そして家族をしっかりと護ってゆかなければならない年とされます。

他方、経済界に伝わる格言として、『辰巳(たつみ)天井、午(うま)尻下がり、未(ひつじ)辛抱、申(さる)子(ね)は繁栄、丑(うし)はつまずき、寅(とら)千里を走り、卯(うさぎ)は跳ねる』というものがあります。戌年の格言は「笑い」となっていますので、笑顔で一年を過ごせるようお願いいたします。

「犬馬は難く、鬼魅は易し」(けんばはがたく、きみはやすし)という諺があります。これは画を描くとき、犬や馬のように、普段から見慣れているものは描きやすいように思えるが、本当は難しい。反対に鬼や怪物は、人が見たことのないので、難しいように見えて、実は簡単に描けるといえるものです。奇をてらった行動により評価されることはたやすいが、それよりも、あたり前のことを当たり前に実行することがいかに難しいことか、それを実行できる人こそ、真の実力者というべきなのかもしれません。厳しい冬の時代を目前に控え、非凡なる凡人としての生き方を大切にしたいところです。

さて、今宮神社においても、昨年から計画しておりました新社殿の御造営の準備がようやく整い、いよいよ今年四月に着工の運びとなりました。検討を重ねた結果、現在の仮本殿と朱塗りの鳥居の間の神域に、かつての御社殿(現在の聖神社社殿)と同規模の拜殿を建設し、さらに、その前に大きな屋根を設け、皆様に気持ちよくご参拝いただけるようになります。ぜひ皆さまのご支援ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

今年もまた、元日の「歳旦祭」につづき、新しき春の到来を喜ぶ「立春祭」、明治十一年「秩

父大火」の思い起こし防災の決意とともに火伏の神々に祈りを捧げる「三社祭」、武甲山の龍神さまを里にお迎えして感謝を捧げる「龍神祭」、秩父神社の御田植祭にその龍神さまの御恵をお分けする「水分祭」…と春のお祭りが続きます。六月には、高祖役小角(役行者)をお祀りする「役尊神祭」(行者祭)、そして水無月晦の「夏越大祓」。秋には、そして当社の主祭神であるイザナギ、イザナミ、スサノヲの三柱の神々に感謝の誠を捧げる「例大祭」へと繋がります。皆様方にもぜひお運びいただき、祈りを共有させていただきます。平成三十年 元旦

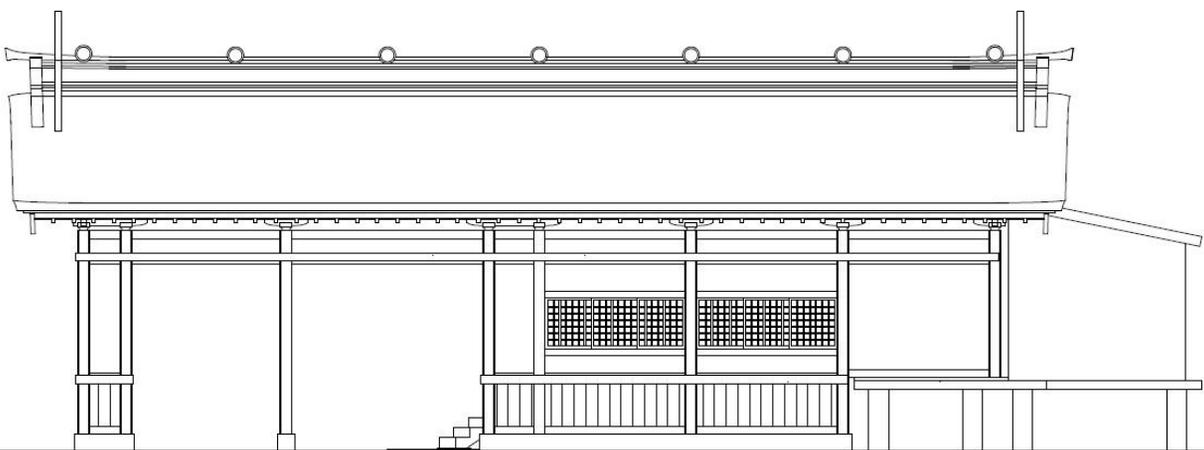
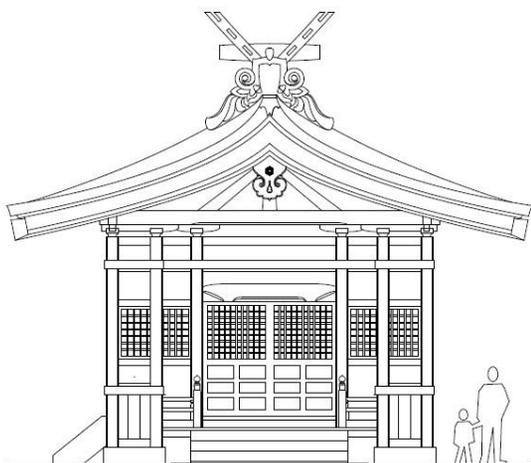
【新社殿の御造営がはじまります】

今宮神社の御神域には、かつて、立派な朱塗り権現造りの社殿がどっしりと構えていました。宝永六年(一七〇九年)から翌七年にかけて、大宮郷(現秩父市)の工匠である大曾根与兵衛により建立されたものとき



れています。この旧社殿は、昭和三十九年、境内地を児童公園・児童館として開放するにあたり、黒谷の聖神社に寄贈され、現在でも、聖神社の御社殿として親しまれています。

当社においても、平成二十五年以来の御神域整備事業が進む中で、社殿再築の機運が高まり、これまで検討を重ねて参りましたが、平成三十年をひとつの節目として、将来に向けて、今宮神社が皆さまの心の故郷・日々の支えであり続



けるよう、新社殿の御造営事業を計画して参りましたが、いよいよ、今年四月をもって着工の運びとなりました。

まず第一弾として、現在の仮本殿と朱塗りの鳥居の間の御神域に、かつて境内に威風堂々と聳えていた御社殿（現在の聖神社社殿）と同規模の拝殿と、その前面の斎場を覆う大屋根を建設し、御参拝・御参列の皆様が快適に参拝できるようにいたします。また、御社殿の周囲には、記念植樹を行い、新たな鎮守の森の形成に努めたいと考えておりますが、これと平行して、東日本大震災以来若干の樹勢の衰えが見られる大櫨の維持・存置のための整備事業もあわせて執り行いたいと思っております。

皆様方には、別途、御造営行事の日程・募財等についてご案内を申し上げますが、ぜひ皆さまのご理解ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

記

【今宮神社新社殿造営事業】

一名 称

今宮神社社殿再築な・社叢整備事業

二 工 期

境内工事鳥居移設 平成三十年一月頃

社殿工事 平成三十年四月着工

平成三十年九月竣工予定

三 設計・施工

内柳古典建築設計事務所・内柳工務店

四 総工費

四千万円（募財目標額 二千万円）

五 募財期間 平成二十九年十月～竣工まで

一口 五千円

ご奉納金額を問わず、全ての方のご芳名を神前に奉納し、永久保存させて頂きます。

お申込みは、奉賛会事務局または社務所までご連絡ください。

【平成二十九年度を振り返って】

◎平成二十九年一月一日 歳旦祭齋行

◎平成二十九年二月四日 立春祭齋行

◎平成二十九年三月二十一日 三社祭齋行



中町会・東町会及び秩父市消防団による火難除け祈願の祭典。明治11年(1878年)の秩父大火は、秩父の市街約4万坪447棟を焼け尽くしました。二度とこのような災禍の起こらないよう、以後140年にわたり、地元消防団を中心に、摂社に祀られる火伏の神様である秋葉大神・古峯大神・三峯大神に防災を祈願しています。

◎平成二十九年四月四日

龍神祭・水分祭を齋行



午前中、龍神木前斎場にて「龍神祭」が盛大に齋行されました。同日午後、秩父神社より神職・怜人・作家老・神部ら御一行が今宮神社に水乞いに参られ、当社斎場にて「水分神事」が執り行われました。秩父神社ご一行は、今宮神社から授与された「水幣」を秩父神社に持ち帰り、境内にて御田植神事が執り行われました。



水幣授与の儀



授与された水幣を奉じて秩父神社へ戻る作家老と神部ら。

◎平成二十九年六月四日

役尊神祭（行者祭）を齋行



◎平成二十九年六月三十日

夏越大袂・茅の輪くぐり神事を齋行



「大袂」は、私たちが日常生活において知らず知らずのうちに身に纏った罪穢を払い清める神事です。今年もまた、奉賛会の皆様方にお手伝いいただき、無病息災をもたらすとされる立派な「茅の輪」を設置して「茅の輪くぐり」の神事を執り行いました。

◎平成二十九年九月二十八日

今宮神社例大祭を齋行



◎平成二十九年十二月二日～三日

秩父神社例大祭（秩父夜祭）

◎平成二十九年十二月三十一日

年越大袂神事を齋行

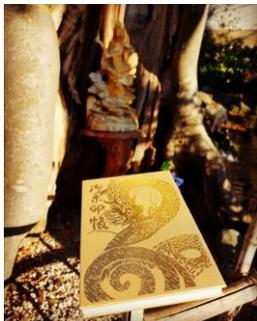


当今宮神社では、「今宮神社」「八大龍王宮」役尊神」など五種の御朱印をご用意するとともに、当社オリジナルの紺色とベージュの二種の御朱印帳を頒布しており、大変好評を博しておりますが、このたび、平成三十年度のお正月限定にて「金龍御朱印帳」をご用意いたしました。

数量限定となっておりますので、ご希望の方はお早めに授与所でお求め下さい。



限定版「金龍御朱印帳」(箔押)



「御朱印帳」(刺繍)

【今年度の行事予定】

平成三十年一月一日 歳旦祭

平成三十年一月七日 神道護摩供始祭

平成三十年二月四日 立春祭

平成三十年三月二十一日 三社祭

平成三十年四月四日 龍神祭・水分祭

平成三十年六月三日 役尊神祭

平成三十年六月三十日 夏越大袂

平成三十年九月二十八日 例大祭

平成三十年十二月三十一日 年越大袂

各行事につきましては、随時ご案内申し上げますので、お気軽にご参加下さい。

【今宮神社の御朱印帳】

近年、社寺参拝の証として「御朱印」を求め参拝者が増えております。当社においても、御朱印帳を片手に参拝する方が増え、日々社頭を賑わせております。